

スマート農業が加速化

新技術開発が責務

農機3団体の新年交礼会

北海道農業機械工業会、北海道農機商業協同組合、十勝農業機械協議会3団体主催による「平成31農業機械業界新年交礼会」が1月24日、札幌市の札幌全日空ホテルで開催された。北海道経済産業局をはじめ、北海道庁関係部局、試験場、学会、ホクレンなど多彩な顔ぶれが出席。その中で宮原会長は「ICT技術を活用した新たな技術開発を進めていくことが農業機械に携わる機関、あるいは関係者の社会的な責務」と述べ、更なる北海道農業発展への決意を新たに示した。

宮原会長は「北海道農業においてロボット技術は、担い手の減少や経路やICTによりスマート規模の拡大などにより、ト農業を加速させていく。農業機械のニーズが大きくなっている。政府は、動走行トラクタに続き、

IoTやAIを使った農業技術開発を進めていくことが農業機械に携わる機関、あるいは関係者の社会的な責務だと痛感している。私もとても大規模農業の中核を占める北海道農業へ一層貢献することを考えている」と紹介がなされ、作業機の調整や自動化へも需要が高まっていくと考えている。そういった次なる課題や目標に向け、新たな

また、来賓を代表して岡出直人経済産業省北海道経済産業局地域経済部長、新津健次北海道経済産業局振興課長が挨拶。岡出部長は「農業は我が国の食の安全を支えると共に食品サプライチェーンの最上位に位置する基幹産業。そのためには農業機械がますます重要になってくるのである。経済産業省としては30年度補正予算、31年度当初予算において各種支援策を措置しており、こうした施策を活用して皆さま方の取り組みを後押ししていきたい」と述べた。

乾杯の発声は土谷令次北農工副会長が行い、開会の挨拶では十勝農業機械協議会の山田政功会長が、昨年7月に開催した「第34回国際農業機械展in帯広」が大成であったことを報告すると共に関係各位へ感謝の意を述べた。

これに先立ち新春特別講演会が行われ、PTCジャパンの後藤智ノリユーション戦略企画室ディレクター・フェローは「今後の農業界に変革を与えるデジタルテクノロジー」、北海道大学院農学研究院の石井一暢准教授は「ISOBUSの今後、国産農機への期待」の演題でそれぞれ講演した（詳細については次号）。

あいさつする北農工の宮原会長



農業機械業界新年交礼会

北海道農業機械工業会・北海道農機商業協同組合・十勝農業機械協議会

ープに寄り添った技術・製品の開発に取り組みたいことを期待させていたのだ」と挨拶した。続いて永年継続役員感謝状の贈呈がなされ、土谷製作所の土谷令次会長、日農機製の安久津昌義会長が宮原会長より授与された。